

## 【日本の大学】第 63 回——南山大学：人間の尊厳重視、私立の総合大学

南山大学は中部地方の大都市、名古屋に本部があり、カソリックの修道会である神言会を設立母体とする私立の総合大学である。1949 年の設立時は外国語系の文学部 1 学部でスタートしたが、その後、社会科学部など次々に新しい学部を設置し、現在は 8 学部 18 学科へと発展している。

男女共学の大学としては中部地方で唯一のカトリック系のミッションスクールであり、建学の理念としては「キリスト教世界観に基づく学校教育を行い、人間の尊厳を尊重かつ推進する人材の育成」を掲げている。この建学理念に具体的な方向性を与えるために「Hominis Dignitati（人間の尊厳のために）」という教育モットーを掲げている。

以下、南山大学のホームページなどから、大学の歩みや現状をみてみよう。

大学の起源は 1932 年に誕生した旧制の南山中学校である。明治時代の末期に来日して布教に当たっていた神言会名古屋教区長のドイツ人宣教師ヨゼフ・ライネルス神父が、設立資金確保のために欧米を巡歴するなどの苦労を重ねた末、南山中学校の設置にこぎ着けた。



大学正門

## 外国語専門学校から出発

「なんざん」の名前の由来は、学校のある辺りの山林地が「南山（みなみやま）」と呼ばれていたところから、音のつながりの良い「なんざん」を校名にしたという。また、李白の春日行や詩経に「南山」「南山寿」が散見され、これが持久、堅固を意味し、長寿を慶祝するとの字義を考えて、永久の繁栄の願いを込めて名付けられたともされている。

第二次大戦中の苦難な時代を経て、終戦直後の1946年には、南山外国語専門学校を開設。名古屋外国語専門学校と改称された後、1949年に新制大学として南山大学が開設された。開学当時は、文学部の英文、仏文、独文、中国文の1学部4学科であった。定員は100名であったが、初代学長のアロイジオ・バッハ神父は大学構想の段階から、外国語大学ではなく、アカデミズムを重視した総合大学であることを理想に掲げており、順次、学部・学科の増設を図ることを計画していたという。1950年には早速、文学部に哲学、教育、社会の3学科を増設した。

1952年には、第2の学部として社会科学部（社会学科、人類学科）が開設された。1964年には、それまでキャンパスのあった五軒家町（現在南山高等・中学校の所在地）から、現在の大学所在地である山里町へと移転した。著名な外国人建築家であるアントニン・レーモンドによって設計され、丘陵地の起伏と自然を生かし、美観と安全を考えて電線をすべて地下に埋設するなど、先進的なキャンパスをつくった。その後も多くの建物が建造されて現在に至っており、本部棟のほか、理工学部が使うS棟、国際交流センターなど国際関係の施設が入っているR棟など、多くの学生が集っている。



S棟



Q棟（左）とD棟（右）

着々と学部を増設

総合大学への歩みはその後も着々と進められた。1960年には社会科学部の社会学科を母体に経済学部（経済学科）が、1968年には経営学科を分離して経営学部（経営学科）を設置している。1963年には、文学部に置いていた外国語学科を廃止するなどして、外国語学部（英米科、イスパニヤ科）を設置、さらに1977年には法学部が誕生した。

教育の場であるとともに、優れた研究の場であることも目指し、開学の年（1949年）には早くも、人類学民俗学研究所（のちに人類学研究所）を立ち上げたのを皮切りに、次々に研究所・研究センターを設置した。現在は六つの研究科を展開している。

1995年には、名古屋聖霊学園と合併、これを機に、瀬戸キャンパスの開設計画を進め、2000年に同キャンパスに総合政策学部と数理情報学部を設置した。同時に名古屋キャンパスの文学部と外国語部部の大幅な改組改編に着手し、新たな人文学部と外国語学部へと生まれ変わった。数理情報学部はその後、情報理工学部（2009年）、さらに理工学部（2014年）へと名称を変更した。



R棟

現在、人文学部は 4 学科からなっている。キリスト教学科、人類文化学科、心理人間学科、日本文化学科である。モノの時代から心の時代へ、そして生命の時代へと移り変わった今、「人間とは何か」「人生とは何か」「人と人の対話はいかになされるべきか」という根源的な問題が問われている。人文学部ではそうした問題を、4 学科を通して深く教育、研究していく。

外国語学部は、英米学科、スペイン・ラテンアメリカ学科、フランス学科、ドイツ学科、アジア学科の 5 学科からなる。「外国語教育」と「地域研究」を両軸とする学びを追究し、外国語運用能力の習得にとどまらず、その言語が話される国や地域の歴史・文化・政治・経済などについて専門的な知識を学ぶ。

アジア学科を例にとると、中国、台湾、韓国などを含む東アジア地域を対象にした「東アジア専攻」、インドネシア、タイ、ベトナムなどを含む東南アジア地域を対象にした「東南アジア専攻」の 2 専攻の中で、各地域の言語、文化、社会を専門的に学ぶ。両専攻ともに 1 年次に英語（週 2 コマ）、中国語（第 1・第 2 クォーターは週 4 コマ、第 3・第 4 クォーターは週 2 コマ）、インドネシア語（週 2 コマ）を必修として学ぶ。入門演習や講義を通して基礎知識を共有する。2 年次では、台湾で実施する「海外フィールドワーク A」とインドネシアで実施する「海外フィールドワーク B」を設けており、全員が海外実習に参加できる仕組みを整えている。こうした学習を通して、中国語、インドネシア語、英語の 3 言語を習得し、東アジア地域・東南アジア地域の言語、文化、社会を深く理解する能力を身につける。

2000 年度からスタートした理工学部は当初、数理情報学部という名称だったことから数理技術やソフトウェア技術の学修や研究に力点を置いてきたが、電子通信技術や機械制御技術の進歩と相まって、大きな変貌を遂げる中で、2021 年度からは改組改編を実施し、従来からの「ソフトウェア工学科」のほかに、「データサイエンス学科」「電子情報工学科」「機械システム工学科」の 3 学科を新設し、4 学科構成となった。



【パッヘ・スクエア／グリーンエリア】グリーンエリア中心部のレンガ張りのフロアは、初代学長アロイジオ・パッヘ師を記念して「パッヘ・スクエア」と名付けられている。

## 山積する現代的課題に挑戦

総合政策学部も 2000 年度に設置された。地球温暖化、民族間紛争、国内では少子高齢化など現代社会には解決が急がれている問題が山積している。これらさまざまな要因が絡み合っている問題を分析し、解決策を立案・実施するには、当事者への尊厳を持ち、状況や背景を理解することが不可欠だ。学部では、文明論を学びの基礎として、地域文明の構造や特長、関係性を学ぶことで問題発生要因を的確に把握する力を養成する。その上で社会の仕組みや機能を理解するために国際政策、公共政策、環境政策に関する科目を学び、課題を分析する力の解決のための知識や手法を身につけていく。

8 番目の学部として 2017 年に設置されたのが国際教養学部である。グローバル化の進展により、気候変動、貧富の拡大、内戦、移民難民の大量発生といった地球規模での課題が深刻化している。それらの課題に対してグローバルな視点で考え、行動できる教養を備えた地球市民を養成するための教育と研究の場として位置づけ、持続可能な国際社会の実現に貢献する人材を輩出していく。また、瀬戸キャンパスにあった総合政策学部と大学院の社会科学部総合政策学専攻を名古屋キャンパスに移転し、全学部・全学科を名古屋キャンパスに統合した。

大学では、2007年度に20年後を見据えた将来像（南山大学グランドデザイン）を策定した。ビジョンとして「人種、障がい、宗教、文化、性別など、さまざまな違いを認識し、多様性を前提とした人間の尊厳、他者の尊厳を大切にし、人々が共生・協働することで、新たな価値の創造に貢献する」とのキャッチフレーズを掲げて、その実現のために教育・研究活動の一層の充実に取り組んでいる。

学生の海外留学や外国人留学生の支援などを目的に設置されているのが国際センターである。関連施設として多文化交流の拠点として2017年にオープンした多文化交流ラウンジ、外国人留学生が日本語での日常会話を体験できる交流スペースのジャンプラザ、留学生と日本人学生が共同で暮らす混住型の国際学生宿舎（2022年4月から）がある。



#### ゆかたフェス

教員数は大学専任教員が348名（うち女性84名）、専任事務職員や非常勤講師などを含めると1058名（うち女性456名）である。このうち外国籍教育職員数は66名。学生数は学部が9020名（うち女性4935名）、大学院は179名（うち女性63名）である。このうち、外国人留学生数は学部が計141名（うち女性77名）、大学院24名（うち女性14名）である。（以上2021年5月現在）



## 2021 年入学式

学長はロバート・キサラ氏である。米国シカゴ市出身。Divine Word College 数学科卒業後、Catholic Theological Union 大学神学研究科、東京大学大学院人文科学研究科修士課程及び博士課程を修了。文学博士。1995 年から南山大学で教鞭をとり、2020 年 4 月から現職。

日文：滝川 進

写真：南山大学 HP&FaceBook